

## イベントレポート 『2010 K耐久東海シリーズ 第2戦』

開催日 2010年5月16日(日)

13:00 決勝スタート 16:00 チェッカー

天候 晴れ

最高気温 23.1 (15時)

場所 スパ西浦モーターパーク

エントリー台数 34台

2010年5月16日(日)愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークにおいて、2010K耐久/GT耐久東海シリーズの第2戦が行われた。



当日は朝から文字通りの五月晴れとなり、過ごしやすい気温も相まって絶好のレース日和となった。

### ■ KNCクラス(軽NAのクローズドクラス)

毎戦最多エントリーを集めるこのクラスは今回も 16 台がエントリー。開幕戦では上位の 5 台が同一周回数でフィニッシュという接近戦であったが、今回はどのような展開が待っているのか。

### ■ 予選

予選のタイム計測はフリー走行のラスト5分のみ。コース上は混み合っているところもあれば空いているところもあるため、タイム計測前に冷静にポジションを確保できるかがポイントとなってくる。



予選 1 番時計を叩き出したのは、No.99「モノコックボディーミュートゥデイ」でタイムは 1'07.377 をマーク。

続く 2 番手はトップから 0.3 秒の差で No.23「カーケアオフィストゥデイ」が続き、3 番手はそこからさらに 0.1 秒の僅差で開幕戦の覇者 No.36「Jレーシングユーロートゥデイ」が続く。

4 番手もさらに 0.1 秒の差で No.236「タカタCCMCトゥデイ」が入り、ここまでが 7 秒台を記録する。

5 番手以下は 8 秒台となるが、相変わらず僅差の戦いとなる。5 位の No.48「真和コーギーライツBEAT」は 4 位から遅れることわずか 0.15 秒。6 位の No.10「ぼんこつRTトゥデイ」も 5 位とは 0.16 秒の差と、僅差が当たり前のごとく各車が並ぶ結果となった。

以下 7 位に No.4「ロワードモーショントゥデイ 6 号」、8 位に No.90「ガレージトライトゥデイ」、9 位に No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」と続く。



### ■ 序盤

レースが 60 分を経過すると、ほとんどのチームは 1 回目の義務ピットインを終了させるが、そんな中 1 回目のピットインタイミングを 1 時間以上引っ張る作戦を取るチームもある。

60 分経過時点では、この作戦を取った No.38「デモリッションエグゼトゥデイ」と No.90「ガレージトライトゥデイ」が、1 位と 2 位に付けることになる。

3 位に以下は 1 回目の義務ピットインを終了させたチームが占めることに。3 位の No.99「モノコックボディートゥデイ」の 50Lap を筆頭として、



4 位から 10 位までが 49Lap の同一周回という超接近戦を繰り広げる。  
4 位 No.10「ぼんこつRTトゥデイ」、5 位 No.23「カーケアオフィストゥデイ」、6 位 No.236「タカタCCMCトゥデイ」、7 位 No.48「真和コージョーライツBEAT」、8 位 No.4「ロワードモーショントゥデイ 6 号」、9 位 No.127「アンティスネコマルトゥデイ」、10 位 No.36「JKレーシングユーロートゥデイ」のオーダー順。

#### ■ 終盤

終盤に差し掛かっても周回数が開かないのがこのクラスの特徴。それほど実力が伯仲している証拠でもある。

120 分経過時点でのトップは、No.99「モノコックボディートゥデイ」で 97 周をマーク。2 時間経過時点で赤旗が一度も出なかったため、かなり多くの周回数を記録することになった。

2 番手は No.4「ロワードモーショントゥデイ 6 号」で LAP 数は 96 周を記録。3、4 番手も同一周回で、No.10「ぼんこつトゥデイ」、No.127「アンティスネコマルトゥデイ」と続く。

また 5 位の No.236「タカタCCMCトゥデイ」、6 位の No.48「真和コージョーライツBEAT」、7 位の No.23「カーケアオフィストゥデイ」、8 位の No.36「JKレーシングユーロートゥデイ」の 4 チームが 95 週の同一 Lap で上位を追いかける。

この後間もなく赤旗となったが、その際に赤旗追い越しのドライブスルーペナルティーを No.99「モノコックボディートゥデイ」と No.10「ぼんこつトゥデイ」が受けることになり、最終結果にどういった影響が出るのか…。

また残り 20 分となった時点で、No.23「カーケアオフィストゥデイ」がスローダウンしてピットイン。上位争いから離脱してしまう。

#### ■ 最終結果

超接近戦のKTCクラスを制したのは、No.99「モノコックボディートゥデイ」で 129 周を記録。終盤のドライブスルーペナルティーに肝を冷やしたが、最終的には首位の座を守った。

続く 2 位は No.127「アンティスネコマルトゥデイ」。周回数こそ 128 周であったが、トップとは約 40 秒の差であった。

そして今回は 2 位から 5 位までが同一周回の 128 周を記録。3 位には No.48「真和コージョーライツビート」が入りビート勢としての意地を見せ、4 位 No.236「タカタCCMCトゥデイ」、5 位 No.10「ぼんこつRTトゥデイ」と続いた。

以下 6、7 位は共に 127Lap で、No.4「ロワードモーショントゥデイ」、前回優勝の No.36「JKレーシングユーロートゥデイ」と続いた。

今回の表彰台 3 チームを見てみると、開幕戦とは全く別の 3 チームが入る結果に。KNCクラスは実力伯仲ゆえ、今後もどのチームが表彰台に立つか、チェッカーが降られるまでは全く予測不能と言えよう。



## ■ KNOクラス(軽NAのオープンクラス)

開幕戦ではエントリー2台とやや淋しかったこのクラス、今回は4台のエントリーと台数が増加した。前回総合優勝を飾った「アンティスネコマルチーム」は、今回はマシンをトゥデイからビートにチェンジ。「アンティスネコマルチーム」がこれまで通りの速さを見せるのか、他チームが待ったをかけるのか。

## ■ 予選

予選1位となったのはNo.126「アンティスネコマルビート」。総合でも1位となる1'05.243のタイムをマークする。

2位はNo.223「ヤマモトリングトゥデイ」でタイムは1'06.741。このタイムも総合2位に当るもので、決勝グリッドのフロントロー2台をKNOクラスのマシンが独占することになった。

3位には今年初参戦のNo.211「白須賀会トゥデイ」が入る。またもう1台のエントリーであるNo.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」はマシントラブルのために予選タイムが残せず、修理のためにピットに留まったまま決勝スタートを迎えることになる。

## ■ 序盤

決勝序盤はフロントローからスタートしたNo.126「アンティスネコマルビート」とNo.223「ヤマモトリングトゥデイ」の2台がトップ2を保ったままレースを引っ張る。

1時間を経過した時点でもそれぞれ50Lapの同一周回でデットヒートを繰り広げる。

3番手はNo.211「白須賀会トゥデイ」が順調にラップを重ねるが、トップ集団からは6Lapの遅れを取ってしまう。

またピットスタートとなったNo.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」は1時間経過の少し前に修理が完了し、レースに復帰する。

## ■ 終盤

2時間経過時点でのトップは、No.126「アンティスネコマルビート」で98周を周回。総合では2位の位置に付けるが、総合トップとはわずか30秒の差。

2位はNo.223「ヤマモトリングトゥデイ」で周回数は93周となるが、義務ピットインを既に3回消化していることから、トップとの差は実質1周と僅差で、優勝の望みをつなぐ。

3位にはNo.211「白須賀会トゥデイ」が追いかけるが、82Lapと優勝を狙うには厳しい状況に。

途中よりレースに復帰したNo.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」は35Lapを周回する。

## ■ 最終結果

僅差ながら終始トップを走ったNo.126「アンティスネコマルビート」が131周で優勝を飾った。総合でもトップからわずか5秒落ちの2位という堂々たる結果で、ビートという車両の可能性をアピールした。

2位にはトップから遅れること1LapでNo.223「ヤマモトリングトゥデイ」が入り、2戦連続での準優勝となった。

3位はNo.211「白須賀会トゥデイ」が109周でチェッカーを受けたが、ラスト50分時のコースアウトで大幅に遅れを取ってしまった。



またマシントラブルのため1時間ほど遅れてのスタートとなった No.57「伊藤家レーシングチームトゥデイ」は、59 周を走りきってチェッカーを受けたが、規定周回数に達しなかったため惜しくも完走扱いとはならなかった。No.126「アンティスネコマルビート」は第3戦では20Kgのウェイトハンディーを積むことになる。次戦は No.223「ヤマモトリングトゥデイ」がトップを捉えることができるのか。



#### ■ KTCクラス(軽ターボのクローズドクラス)

今回は7台のエントリーとなったKTCクラス。前回優勝の「タナカオートレーシング」チームが今回は不在のため、シリーズを追うチームにとっては上位ポイントを獲得するまたとないチャンス。また初参加が2チームあり、これらのチームが果たしてどこまで上位に絡んで来るのか。

#### ■ 予選

予選1位を獲得したのは No.46「カーエナジーアルトワークス」でタイムは1'07.543を記録。続く2番手はNo.210「ZEST Sprightアルト」でタイムは1'07.643と、その差はわずかに0.1秒。

これら2チームは前戦では4位と3位に入賞しており、上位ポイント獲得に向けて絶好のポジションを確保する。

3番手には1'09.790でNo.21「ZEST Sprightセルボ」が入り、2位と3位をチームZESTが占める形に。

4番手には前回は悔しい予選リタイヤとなったNo.112「白須賀会ワークス」が1'11.896で続く。

5番手には前回2位のNo.14「ガレージイシヤマ アルトバン」が1'15.184で入るが、総合で後から6番目のグリッドと、上位を狙うには不利な位置からのスタートとなる。

6,7番手には初参加の2台、No.5「M.N.アルトワークス」と、No.54「減税対象車むむむアルト」と続くが、初参加ゆえにコースの熟知に徹したためこのポジションとなる。



#### ■ 序盤

60分が経過した時点では、各チームとも1回目のピットインを終了。この時点での1位は予選5位からスタートしたNo.14「ガレージイシヤマ アルトバン」が一気に挽回を果たし51Lapを周回。

しかし2位と3位も50Lapで、トップとは僅差に付ける。2位にはNo.46「カーエナジーアルトワークス」、3位にはNo.210「ZEST Sprightアルト」と予選上位の2チームがそのままに続く。

4番手争いは48Lapの2台が繰り広げる。4位はNo.112「白須賀会ワークス」で、それを3秒差でNo.21「ZEST Sprightセルボ」が追いかける接近戦。



また 6 番手は初参加の 2 台が争う形に。6 位は 45Lap で No.54「減税対象車むむむアルト」が入り、これを 44Lap の No.5「M.N. アルトワークス」が追いかける。

KTC クラスは 3 つのグループに分かれてレースは中盤へと突入する。

#### ■ 終盤

レースは中盤に 2 台のマシンがリタイヤする。90 分経過時点には No.112「白須賀会ワークス」が、100 分には No.54「減税対象車むむむアルト」がそれぞれエンジントラブルでピットに止まり、再びコースに戻ることはなかった。

120 分が経過した時点でのトップ争いは 2 台に絞られる。1 位は No.14「ガレージシヤマ アルトバン」で 98 周をラップする。これを 1Lap 差で No.210「ZEST Sprightアルト」が追いかける。

3 位には No.46「カーエナジーアルトワークス」が続くが、94Lap とトップグループから離されてしまう。

これを 93Lap で No.21「ZEST Sprightセルボ」が追いかけて、3 位を射程圏内に捉える。

5 位には 84Lap の No.5「M.N. アルトワークス」が続く。

#### ■ 最終結果

KTC クラストップでチェッカーを受けたのは、No.14「ガレージシヤマ アルトバン」。予選は総合 28 番手と出遅れたが見事な追い上げを見せ、総合でも 1 位となる 131 周でゴールした。

トップ 1 周差での 2 位には No.210「ZEST Sprightアルト」が入り、昨年度シリーズ 2 位と 3 位の実力チームが結果を残した。

3 位に入ったのは No.46「カーエナジーアルトワークス」。序盤はトップ争いに絡んだものの、最終的には 125 周で 3 位でのフィニッシュとなった。

4 位の No.21「ZEST Sprightセルボ」は後半追い上げて 3 位と同一の 125 周を周回するも、表彰台にはあと一步届かなかった。

5 位には 115 周で初参加の No.5「M.N. アルトワークス」が見事完走を果たした。

次回第 3 戦は真夏の気温に加えて 4 時間の長丁場。ターボ車には厳しい環境の中で、どのチームが結果を残すのか！？



## ■ KTOクラス(軽ターボのオープンクラス)

今回は6台のエントリーとなったこのクラス。昨シーズンシリーズ4位のNo.473「Legendカプチーノ」が今シーズン初エントリー。

No.8「チームグローバルカプチーノ」の2連勝となるのか、もしくはこれを阻止するチームが出てくるのか。

## ■ 予選

予選1位となったのはNo.8「チームグローバルカプチーノ」。開幕戦で優勝したために20Kgのハンディーウエイトを搭載していたが、ハンディーを感じさせない1'07.377のタイムでクラストップを獲得。

2位には前回4位のNo.59「ナルミファクトリーアルト」が1'08.341で入ってくる。

また3位には前回2位のNo.192「DXLメビウスセルボモード」が1'08.931で、4位には前回3位のNo.55「アビリティーガレージワークス」が1'09.465で入り、前回の上位チームがそのまま予選上位を独占する形になる。

今年初参加のNo.473「Legendカプチーノ」は5位となるが、4位との差はわずか0.06秒。上位チームを視野に捕らえながらのスタートポジションを確保する。

以下6位にはNo.666「ヴィスコンティIMWあると」が続く。

## ■ 序盤

60分経過時点でのトップは、予選1位からスタートのNo.8「チームグローバルカプチーノ」。50LAPを記録し総合でも4位に付ける快調なペース。

これを17秒差の同一周回でNo.192「DXLメビウスセルボモード」がピタリとマークする。

また3位のNo.55「アビリティーガレージワークス」も49周とまだまだトップに手が届く位置をキープする。

4位は48LAPのNo.473「Legendカプチーノ」、5位は47LAPのNo.666「ヴィスコンティIMWあると」と、それぞれ1周差で追いかけて、終盤に望みをつなぐ。

予選2番手からスタートのNo.59「ナルミファクトリーアルト」はエンジンの不調でピットに長時間ストップ。大きく順位を落としてしまう。

## ■ 終盤

2時間を経過した時点でもNo.8「チームグローバルカプチーノ」が1位の座を守り続ける。総合トップと同一周回になる98周を走行し2位に3周のアドバンテージを築き、2連勝への足場を着々と固める。2位と3位は95周の同一周回で、No.192「DXLメビウスセルボモード」とNo.55「アビリティーガレージワークス」が激しい争いを繰り広げる。

また4位のNo.473「Legendカプチーノ」も3位から1周遅れで走行。この3台で表彰台の2つの席を争うことになりそうな展開に。

5位のNo.666「ヴィスコンティIMWあると」は81周で、第2グループから離されてしまう。

長時間ピットストップしていたNo.59「ナルミファクトリーアルト」は修理を終えてレースに復帰するも、63LAPに留まる。



## ■ 最終結果

予選 1 位から終始トップの座を守った No.8「チームグローバルカプチーノ」が 130 周を走りきり開幕 2 連勝を飾った。また総合でも 3 位に入り優勝に花を飾った。

2 位と 3 位はスタートから終始デッドヒートを繰り広げた 2 台が入る。この争いを制しての 2 位は No.55「アビリティーガレージワークス」で 127 周でチェッカーを受けた。

2 位と同一周回での悔しい 3 位には No.192「DXLメビウスセルボモード」が入った。

中盤に 2 位争いに迫る位置をキープしていた No.473「Legendカプチーノ」であったが、表彰台にはあと一步届かず 4 位でゴールした。

5 位は No.666「ヴィスコンティ「MWあると」」が入り 116 周を走りきった。

途中マシンストップしていた No.59「ナルミファクトリーアルト」は、中盤以降は調子を取り戻し 100 周でチェッカーを受ける。規定周回数をクリアしたことから、6 位のポイントを GET した。

磐石の強さを見せた No.8「チームグローバルカプチーノ」であるが、次回は 40Kg のハンディウエイトを載せなければならない。このハンディーをものともせず 3 連勝を果たすのか、またはストップをかけるチームが出てくるのか注目である。



## ■ KWTクラス(軽ワゴン &トラッククラス)

開幕戦では2台のエントリーがあったが、今回は1台のみのエントリーとなったKWTクラス。唯一参加の No.2「クリエイティブキアイアイ」はKWTクラスに与えられる2分のマイナスハンディーに加え、AノT車、マイナスハンディーの30秒も加算され、合計2.5分のマイナスハンディーとなる。

このマイナスハンディーをもって、総合順位でどこまで上がることが出来るのか。



## ■ 予選、決勝

予選では総合27番手につける1'14.368をマーク。しかしピットイン毎に2.5分を挽回できるため、ジャンプアップの可能性は十分にある。

序盤60分を経過した時点では44周をラップするものの、総合では30位とスタート時よりやや後退してしまう。

しかしその後も安定したラップを刻み続け、2時間経過時点では88周で25位にまでポジションを上げてくる。

最終的には121周を走りきり、総合22番手でフィニッシュとなった。次回はKWTクラスのライバル出現となるのだろうか。

